

令和元年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大島）

1. 集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：大島

協定締結集落名：大島漁業集落

交付金額：4,348千円

（1）基本交付金：4,348千円

（2）新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：30世帯、51人（うち漁業世帯30世帯、51人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入(直近3年平均) 3,609,964円

集落の平均漁業者所得 528,511円（平成30年）

2. 協定締結の経緯

佐伯市大島周辺の海域は、典型的なりアス式海岸であり多数の天然礁を有する佐伯湾、天然礁回遊魚の漁場を多く有する豊後水道に面しており、良好な自然環境に恵まれている。地元漁業者は主に一本釣漁業を営んでおり、マダイ、イサキ、ブリ類を主な魚種として漁獲している。大島周辺の浅場は、水産資源の幼稚仔の育成場としても重要な役目を担っている。これまで、地元漁業者がこれらの海域環境を適切に管理することにより、これを保全するとともに周辺水域の有効利用を図ってきた。

しかしながら、漁業が基幹産業である佐伯市大島地区においても、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま放置すれば、大島地区の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も低下する可能性がある。

このため、大島地区は、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する集落での話し合いを通じて集落機能を再編し、必要な場合には既存の慣行を見直し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組める環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施する必要があることから、その取組の継続を下支えするために離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の再生に関する実践的な取組状況

○新規養殖業への着業に向けて二枚貝養殖にかかる検討・試験養殖を行った。

活動内容		実施日	参加人数	経費（円）
新規養殖業への着業	二枚貝養殖研究に向けた取り組み	5月20日	20人	4,250,252
		5月21日	30人	
		5月22日	29人	
		5月23日	3人	
		3月2日	18人	
		3月3日	19人	
		3月4日	20人	

4. 取組の成果

①新規養殖業への着業に向けて二枚貝の養殖についての可能性を探るためイワガキの試験養殖に取り組んできた。

今年度、試験養殖を開始してからの市場への初出荷やブルーツーリズムの食事の提供にも取り組んだ。

区画漁業権取得のための手続をすすめているところで今後さらなる量産を目指した取り組みを進めていく。



殻掃除(R1.5.21)



イベント提供(R2.8.4)



資材設置(R2.3.3)



資材設置(R2.3.4)